

NGO-労働組合国際協働フォーラム - 国連ミレニアム開発目標の実現に向けて -
(2007年9月~2008年8月)
活 動 報 告

はじめに

本フォーラムは、NGOと労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、『国連ミレニアム開発目標(MDGs)』に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与することを目的として、2004年9月に発足した。設立4年度目にあたる2007年度は、NGO10団体及び労働組合10団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで各グループを中心に活動を実施した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「課題別グループ活動」「フォーラム会員団体一覧」「事務局体制」について報告する。

・フォーラム全体の活動

1. 職場とHIV/AIDS～陽性者スピーチと模擬労使交渉

12月12日(水)総評会館において、表記のイベントを開催して、労働組合員を中心に43名の参加があった。ジャンププラスから現在会社勤務中の陽性者スピーカーを派遣してもらうと共に、当グループが開発した「模擬労使交渉」の手法を用いたワークショップを実施した。

2. トーク&ムービー 「児童労働、教育、貧困～インド、そして世界の子どもたちは」の開催

「児童労働映画反対世界デー・キャンペーン2008」の一環として、6月12日の児童労働反対世界デーにちなみ、2008年6月8日13:00~16:00に、UNハウス3階ウ・タント国際会議場において「児童労働と教育」をテーマとした映画上映及びパネルディスカッションを、児童労働ネットワーク及びILO駐日事務所との共催により開催した(児童労働グループ企画)。本イベントは映画という身近なツールをつかって本フォーラムが取り組む国際的な問題について、組合員を含めた一般市民が理解を深める機会を提供することを目的として実施した。

1) 前半: ILO報告、酒井美紀氏トーク、児童労働映画上映会の開催

本イベント前半では、まず長谷川ILO駐日代表より、統計やILOの活動内容を含めた発表があり、「児童労働と教育」についての深い関連性が指摘された。次に特別ゲスト酒井美紀(女優、特活ワールド・ビジョン・ジャパン親善大使)氏による、自身のフィリピンやインドでの経験について触れつつ、会場参加者ひとりひとりが出来ることを投げかけるトークがあり、その後インドの児童労働者であった子どもたちのための学校に通う、アフローズ君の様子を描いたドキュメンタリー映画ビデオ「インド・学校が楽しい!児童労働者学校の子どもたち」を上映した。

2) 後半: パネルディスカッションの開催

後半では、インド、児童労働との関わりが深く、現場での活動にも詳しい大学やNGOの専門家3名のパネリストによる発表が行われ、特にインドやカンボジアでの児童労働の現状と、児童労働に従事する子どもが教育を受けることの重要性が訴えかけられた。その後に参加者からパネリストへの質疑とそれに対する応答があった。パネリストは下記3名。

- ・大橋正明氏（恵泉女学園大学教授、（特活）国際協力 NGO センター理事長、（特活）シャプ
ラニール＝市民による海外協力の会理事）
- ・甲斐田万智子氏（（特活）国際子ども権利センター代表理事、立教大学・桜美林大学非常勤講
師）
- ・堀内光子氏（児童労働ネットワーク代表、文教学院大学大学院客員教授）

上記のトーク＆ムービーには、一般市民（特に大学生・大学院生）、組合員、NGO 関係者、マ
スコミ関係者など約 400 名が参加した。

3．連携事例報告会の開催

6月23日（月）総評会館 2階204会議室にて13時30分～16時30分まで、NGOと労働組
合による連携事例報告会を開催した。前半と後半の二部構成で行い、第一部は「NGOと労働
組合の連携事例の発表」とし、(1)社会開発事業への支援(2)カンボジアにおける人材育成と
人的交流を通じた国際連帯活動への取り組み(3)労働組合アクション－労働者の権利に関す
るリーフレットの作成と配布－の3つの事例について、NGO側と労組側からそれぞれ一名
ずつ発表を行った。それぞれの事例の発表団体は下記の通り。

- (1) (財)国際労働財団、TOTO UNION
- (2) (特活)シェア＝国際保健協力市民の会、自治労神奈川県本部
- (3) (社)アムネスティ・インターナショナル日本、連合

第二部は「交流会及び意見交換会」とし、参加者を10名ほどのグループに分け、ファシリテ
ーターが中心となって、それぞれの課題の共有などの意見交換を含めた交流を行った。労働組
合側参加者は20名以上、NGO側参加者は27名と、合計47名以上の参加があった。

4．合同企画委員会の開催

「NGO-労働組合国際協働フォーラム」の活動方針、運営、及び内容等について協議するた
めに、第31回～第37回まで全7回に及び合同企画委員会を実施した。

5．全体会議

2007年11月14日（木）14時～15時、連合（総評会館内）3階A・B会議室にて、全体会議
が行われた。NGO・労組の企画委員各10団体が参加し、2007年度活動計画及び予算、2006
年度活動報告及び決算報告を共有し、意見交換が行われた。

6．NGO-労組交流学習会

全体会議開催と同日の2007年11月14日（木）15時～17時30分に、NGO-労組交流学習
会が行われた。3つの講義形式により構成され、それぞれのテーマと講師は以下の通り

- (1) 講師：イオントップバリュ株式会社 グリーンアイ商品本部本部長 植原千之氏
テーマ：「イオンのフェアトレードの取り組みについて」
- (2) 講師：(株)オルター・トレード・ジャパン 広報室 事業管理室 事務局長 上田誠氏
テーマ：「フェアトレードへの取り組みについて」
- (3) 講師：連合経済政策局 局長 熊谷謙一氏
テーマ「CSRの取り組みについて（労働組合の経験）」

・課題別グループ活動

児童労働グループ

1. グループ全体の目標

- 1) 労働組合、NGO 双方が国際的な労働問題のひとつとして児童労働への問題意識を高める。またさらに、一般市民へと児童労働への問題意識を広げる
- 2) 児童労働の問題について意識を高めた労働組合と NGO が連携し、児童労働問題の改善に向けた運動を行うようになる。またさらに、運動に一般市民を巻き込むようにする

2. 2007 年度（4 年目）の目標

NGO と労働組合との連携強化を目指して、特に労働組合側が日常的に児童労働問題の改善に取り組めるような運動や活動の可能性について検討し、積極的に参加を促していく。

3. 活動報告

1) メーカー中央大会へのブース出展（4 月）

NGO-労組フォーラムのブースにて「児童労働体験コーナー」を実施した。来場者には、大きなサイコロを転がしてもらい、出た目に応じて、サッカーボール縫い、水くみ、コーヒー豆の選別を体験してもらい、参加賞として ILO の児童労働すごろくをプレゼントした。同時に 6 月 8 日の児童労働反対世界デー・イベントの広報活動を行った。

2) 児童労働反対世界デー・イベントの企画運営（6 月）

6 月 8 日の児童労働の全体イベントの企画、ILO 駐日事務所、児童労働ネットワークとの企画検討会議のコーディネート、ゲスト・パネリストとの調整、イベント当日の運営管理等を行った。検討会議は、12/21、1/16、1/30、3/11、5/16 に合計 5 回開催した。

3) 写真展キャラバンの実施

労組関係者および広く一般市民に児童労働を知ってもらう機会として、新潟（5/7～12）、大阪（5/31）、群馬（6/23～28）、和歌山（8/1～2）で、児童労働写真パネル展「なぜ働く、世界の子どもたち」を開催した（9/3～6 には滋賀で開催予定）。写真展の開催にあたり、展示する写真パネルセットを作成した。群馬、和歌山では、労組関係者を対象にした学習会、ワークショップも同時に開催し、児童労働やフォーラムの活動について理解を深めてもらうことができた。新潟では、G8 労働大臣会合にあわせて開催した結果、新聞、テレビ等にも取り上げられ、より効果的にアピールすることができた。

< 児童労働写真パネル展「なぜ働く、世界の子どもたち」開催実績 >

開催地	実施期間	会場	協力
新潟県新潟市	5/7(水) -9(金)	Next21 1 階アトリウム（商業施設）	連合新潟、NTT 労組
	5/10(土) -12(月)	朱鷺メッセ（G8 労働大臣会合会場内、連合展示ブース）	連合国際局
	5/10(土)	新潟ユニゾンプラザ（連合主催、G8 労働大臣会合プレイベント会場内）	連合新潟、NTT 労組

開催地	実施期間	会場	協力
大阪府大阪市	5/31(土)	大阪・平和フォーラム	N T T 労組大阪グループ連絡協議会
群馬県前橋市	6/23(月) -28(土)	前橋プラザ元気 21 (前橋市内公共施設)	前橋市役所職員労働組合、自治労
和歌山県和歌山市	8/1(金) -2(土)	和歌山県勤労福祉会館「プラザホープ」(和歌山市内公共施設)	N T T 労組和歌山グループ連絡協議会、連合和歌山
滋賀県彦根市	9/3(水) -7(日)	ショッピング&アミューズメント 「ピバシティ彦根」	自治労

網掛けはこれから開催予定

4) 労働組合とN G Oの連携を推進する活動

メーデーのブース、写真パネル展、学習会、ワークショップ、フォーラムに加盟する各労組の大会等の場等で、ブックレットと講師派遣のちらしを配布し、児童労働問題やフォーラムの活動への理解、参加を呼びかけた。

5) グループミーティングの開催

上記活動を実施するために、8/23、11/14、3/31、4/22、7/3 にミーティングを開催した。

HIV/エイズ等感染症グループ

1. グループミーティング

07年の10/3、10/19、11/8、08年の2/26、3/24、4/26、6/10、7/10、8/22に、メンバー4団体のオフィスにて持ち回りで実施した。また、イベント実施時等にも適宜打ち合わせを行い、円滑なグループ活動実施に努めた。

2. 労働組合を対象としたワークショップおよびセミナーの実施

1) 連合大阪青年委員会

07年11月23日(金)、大阪での勉強会に山口が出席して、ワークショップを実施した。

2) 味の素グループ労組協議会若手役員研修会

08年6月1日(日)に箱根で開催された研修会に鈴木・井上が出席して、水の交換や陽性者の手記読み合わせ等のワークショップを実施した。

3) 電力総連青年委員会

8月23日(土)に電力総連会議室にて開催される研修会に、山口・鈴木が出席してワークショップを実施した。

4) JEC 連合医薬化粧品部会事例研究会

8月29日(金)に大阪で開催された研究会に井上が出席して、エイズの現状を報告すると共に、陽性者の手記読み合わせ・ゲーム等を行った。

3. より広い層を対象とした意識喚起活動

1) エイズ写真展

07年12月1日の世界エイズデーを挟んで、11月30日(金)から12月12日(水)まで、総評会館1階ロビーで、写真展を開催した。本年度は、AIDS & SOCIETY 研究会議から貸与を受けた「POSITIVE LIVES」と題する世界の陽性者の写真群をメインに据え、フォーラムの活動写真、シェアのエイズ活動関連写真等と併せて展示した。

2) メーデー中央大会

08年4月27日(土)メーデー中央大会の協働フォーラムのブースに出展し、昨年に引き続きレッドリボンモニュメントづくり、エイズクイズ、コンドームの配布を行なった。

3) 児童労働反対世界デーイベント

6月8日(日)国連ビルにて実施された協働フォーラムの表記全体イベントにおいて、グループとしてエイズと児童労働の関係を表す資料や写真を展示した。

5) AIDS文化フォーラム in 横浜

毎年8月横浜で開催されている表記イベントに今年も参加して、8月1日(金)に模擬労使交渉を中心としたワークショップを実施した。労働組合員、一般参加者を合わせて約30名が出席した。

4. 他団体との連携等

1) ヘルスケア労協

07年10月19日(金)のグループ打ち合わせに、ヘルスケア労協の篠原事務局長が参加して、今後の連携促進について懇談した。

2) ジャンププラス

08年6月29日(日)のジャンププラス活動報告会に見里が参加した。また、8月22日(金)のグループ打ち合わせにも、ジャンププラスから長谷川さん、高久さんの2名が出席し、今後の連携の可能性を検討した。

3) 連合青年活動委員会

連携の可能性を適宜模索した。

母子保健グループ

1. 意見交換会の実施

日時：平成20年2月6日(水) 11:00~12:30

場所：(総評会館内) 連合3階B会議室

ゲストスピーカー：WHO(世界保健機関)本部の母子・新生児保健対策部部長のクオジ・モニール・イスラム博士(Dr. Quazi Monirul Islam)

対象者：NGO - 労働組合国際協働フォーラム参加団体

参加人数：11名

テーマ：「途上国の母子保健の向上と市民社会の役割、副題：MDGにおける妊産婦死亡と乳幼児死亡の低減に私たちは何ができるか」

趣旨と目的：

WHO 本部母子・新生児保健対策部部長モニール・イスラム氏から世界の最新の妊産婦保健・新生児保健の現状と動向について、母子保健に関する理解を深め社

会的な認知度を上げる。

母子保健の向上に向け、市民社会の大きなステークホルダーである労働組合が、NGO と連携しながら身近なところから関わるができる役割について理解を深める。

活動内容：

MDGs の 8 つの目標の内、特に目標 5 の妊産婦死亡の削減及び妊産婦保健の向上への取り組みと進捗が国際的に最も遅れ、世界の妊産婦死亡率は過去 20 年間にわたり減っていない現状がある。また、妊娠と出産にかかわる疾病と事故で、世界で一分に一人の女性が死亡し、年間で 1000 万人以上の女性が疾病で苦しんでいる途上国の状況は日本の市民社会はほとんど知らない。妊産婦が死亡することで、年間に 400 万人の乳児が命を落とし、70 万人の孤児が発生している。

このような厳しい母子保健の国際的状況を、労働組合側より日本の市民社会に伝える事で、市民社会との連携を深める意義をモニール博士は強調した。NGO と労働組合との潜在的な連携の可能性は大きく、今後とも相互に情報・意見交換を継続することが話し合われた。

2. 講演会の実施

日時：2008 年 4 月 16 日（水）14：00～16：30

場所：電機連合会館

参加人数：33 名

〒108-8326 東京都港区三田 1-10-3 電機連合会館

ゲストスピーカー：

辻村 英之（つじむら ひでゆき）京都大学大学院・農学研究科・准教授

内堀タケシ（うちぼり たけし）写真家

高橋秀行（たかはし ひでゆき）ジョイセフ国際協力推進部長

対象者：電機連合組合員

NGO 労組国際協働フォーラム参加団体

NGO 労組国際協働フォーラム母子保健グループの活動にご関心のある方

タイトル：「フェアトレードは、お母さんと赤ちゃんの命を救う活動になぜ必要なのか。」

趣旨と目的：

京都大学大学院農学研究科准教授の辻村英之氏、写真家の内堀タケシ氏、ジョイセフの高橋秀行からフェアトレードとは何か、フェアトレードの波及効果が妊産婦と乳幼児の命を救う活動にどのように関連しているのか、私たち一人ひとりができることは何かについてプレゼンテーションを行い、フェアトレードという切り口から参加者に母子保健との関連性についての理解を深め、協力の輪を広げる。

活動内容：

辻村准教授の講義より：

2001 年から 2002 年にかけてのコーヒー危機により、世界の 2500 万人のコーヒー生産者が貧困にあえぐに至った。コーヒー生産は貧しい農民には貴重な現金収入である。そして生産農家の家庭の

教育費や医療費として利用する機会が多い。しかし、コーヒー生産が打撃を受けると、医療費などを払えなくなる農民が増え、その結果、保健医療の質の低下が起き、また現地の社会開発の停滞を招き、最終的に、妊産婦と乳幼児の死亡率を高め、母子保健に大きな影響をおよぼす。コーヒー栽培農民の収入の安定化を図るためにフェアトレードの仕組みが導入された。この観点から、フェアトレードと母子保健の密接な結び付きが説明された。

内堀氏の講義より：

内堀氏が撮影したタンザニアの母と子やキリマンジャロコーヒー栽培農民に関するフォトギャラリーのスペースを設け、28点の写真の展示を行った。これらの写真のうち、各参加者全員に自分の観点から関心のある写真を任意で選んでもらい、その動機と理由について話してもらった。そこから内堀氏が参加者独自の発想や考えをもとに、フェアトレードコーヒーや母子保健に関する状況の展開を図り、対話型手法のフォトディスカッションを展開した。

高橋秀行の講義より：

妊産婦保健を含む母子保健は、短期の対外的援助だけでは期待された成果が出ないことは国際社会が広く認識している。コーヒーのフェアトレードは持続的開発の観点からも有効な手段である。ジョイセフがタンザニア・キリマンジャロ州で実践活動を行っている母子保健とキリマンジャロコーヒーのフェアトレード統合プロジェクトについて成果と課題を紹介した。

- 2008年4月12日付けの読売新聞（朝刊：全国版）にて講演会の告知情報が掲載された。

3. メーデー中央大会の出席参加（4/26）

活動内容：

メーデー中央大会の協働フォーラムのブースに母子保健グループとして出展した。

今年度は、1テント分を母子保健グループとして出店することでスペース的に余裕があったため、昨年度に行ったチラシの配布以外にパネル展示やジョイセフ・キリマンジャロ・フェアトレードコーヒーの販売も行うことができた。

販売に関しては、コーヒーパックの販売に加え、その場で試飲できるカップ販売も行った。従って、昨年度に比べ、母子保健グループとしての具体的な活動紹介やフェアトレードコーヒーを通じた身近な支援方法と母子保健を参加者に紹介することができた。

キリマンジャロ・フェアトレードコーヒー1カップ100円で販売した結果、電機連合のネットワークなどを通じた呼びかけにより、409杯の試飲があった。また、コーヒーパック（1パック：800円）は、18パックの売上があった。このフェアトレード・コーヒーは、ジョイセフの支援地区タンザニア・キリマンジャロ州でコーヒー栽培農民によって生産されているもので、これらの農民の多くが地域の母子保健を推進する保健ボランティアさんである。このような点からも、約400名以上の参加者にキリマンジャロ・フェアトレードコーヒーのチラシを配布することで、フェアトレードコーヒーと母子保健の結びつきを紹介できた。

4. NGOと労働組合の連携事例報告会でのキリマンジャロ・フェアトレードコーヒーの

試飲紹介

趣旨と目的：

6月23日(月)に行われたNGOと労働組合の連携事例報告会にて、労働組合とNGOの交流会・意見交換会の際にジョイセフのキリマンジャロ・フェアトレードコーヒーを試飲していただくことで、参加者のフェアトレードへの関心を高める。

さらに、フェアトレードコーヒーを切り口に母子保健活動を紹介する機会を得る。

活動内容：

会場の総評会館には、コーヒーメーカー2台分の機材を設営し、コーヒー試飲コーナーを設けた。交流会・意見交換会の際に、ほとんどの参加者がコーヒーを試飲した。母子保健に還元するキリマンジャロ・フェアトレードコーヒーのチラシも配布した。交流会・意見交換会では、コーヒー試飲を通じて、フェアトレードコーヒーと母子保健の情報交換を行った。

教育グループ

1. 教育グループの背景

ミレニアム開発目標(MDG)の8つの目標の内、目標2、3では教育が挙げられている。日本のNGOには、教育支援を主目的あるいは二次的な活動としている団体が多いなか、紛争下・後や自然災害などの緊急時には優先度が低いものとされることも多い。この分野における取り組みの必要性を労働組合との協働で促す必要性が高い。日本教職員組合(日教組)がフォーラムに加盟したこともあり、教育支援を主目的に実施する2NGO シャンティ国際ボランティア会(SVA)、エファジャパンと共に、労組とNGOの教育支援分野の協働の促進を図った。

2. メーデーへのブース出展

4月26日に行われた第79回メーデー中央大会にHIV/AIDSグループ、児童労働グループ、母子保健グループとともに出展した。教育支援事業のパネル展示コーナーを設置した。

3. 教育グループミーティング実績

2007年

11月26日10:00~11:00 日教組、SVA、エファジャパン3責任者の初会合。

12月20日10:00~11:30 活動計画案について打ち合わせ。

2008年

4月10日11:00~12:00 日教組関係集会へのグループ参加およびメーデー出展を打ち合わせ。

7月1日16:30~17:30 7月27日公務公共サービス労働組合協議会(神奈川支部)勉強会へのグループからの講師派遣について打ち合わせ。

4. 労働組合を対象とした報告会の実施

公務公共サービス労働組合協議会(神奈川支部)勉強会での報告

・7月27日(土)に箱根で行われた上記勉強会において、労働組合とNGOの国際協力での

協働について、日本教職員組合国際部長赤池氏、エファジャパン高山氏、(社)シャンティ国際ボランティア会伊藤氏が報告を行った。事例として、日教組(アフガニスタン学校建設と図書館活動)、自治労(ラオス教育支援、労働組合員の参加)の教育支援事例をご紹介した。

・事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会(連合) NGO側事務局として(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)が共同で事務局を担った。なお、本フォーラムの通帳はJANICで管理しており、決算書はJANICが作成した。

・フォーラム会員団体一覧(2008年8月21日現在)

下記は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた。

【労働組合】

団体名	企画委員	児童労働	HIV/AIDS 等感染症	母子保健	教育
自治労	○	○			
UIゼンセン同盟	○	○			
自動車総連	○	○			
国際食品労連日本加盟労組連絡協議会(IUF-JCC)	○	○	○		
電機連合	○			○	
基幹労連	○				
国公連合	○				
JR総連	○				
日本化学エネルギー鉱山労協(ICEM-JAF)			○		
NTT労働組合中央本部		○			
JAM	○	○			
日教組	○				○
連合	○				

【NGO】

団体名	企画委員	児童労働	HIV/AIDS 等感染症	母子保健	教育
(社)アムネスティ・インターナショナル日本	○	○			
(特活)ACE	○	○			
(財)国際労働財団	○	○	○		
(特活)シェア=国際保健協力市民の会	○		○		
(社)シャンティ国際ボランティア会	○				○
(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会	○				
(特活)日本国際ボランティアセンター	○				

(特活) エファジャパン	○				○
(特活) BHN テレコム支援協議会		○			
(財) オイスカ					
トービン税研究会					
(財) ジョイセフ	○			○	
(特活) 国際協力 NGO センター	○				

以上